

もつと元気な紋別を

中小企業家同友会の浦澤佳弘さん

弁護士活動のかたわら地域経済活性化に情熱

中小企業の経営者らが集まり、地元に着目した地域活動とよりよい経営環境を目指して活動している社団法人北海道中小企業家同友会オホーツク支部紋別地区会（森安春会長）。

地方の経営環境が厳しいなか、なかなか会員が増えないのが悩みだが今年4月、10年ぶりに新会員が加入した。昨年8月、紋別市内に法律事務所（北浜2）をかまえた弁護士浦澤佳弘さん（32）。弁護士活動に取り組みながら、地域経済の活性化に資そうと頑張っている。浦澤さんに中小企業家同友会の活動にかける意気込みを聞いた。

（千葉）



妻、真 だった」と振り返る。

奈美さん 様々な出会いにも恵まれた。故郷紋別市に法律事務所を開業した浦澤弁護士。フィナンシャルプランナー・認定心理士などの資格を持つ真奈美さんと二人三脚で業務に当たり1年が経過した。開業後はウェブページを開設し、こまめに情報を発信する傍ら、法律セミナーも開くなど精力的な活動を展開。「駆け足で過ごしたあっとい間」の1年

同会は中小企業の利益を守るという立場から昭和32年に、日本中小企業家同友会（現・中小企業家同友会）として東京で生まれ、現在すべての都

道府県に広がっている。そのオホーツク支部は、約270社の会員企業が加盟している。

浦澤さんは、北見市を中心に網走や斜里、美幌、紋別の各地区が毎月の例会を開催したり、積極的な情報交換を行うなど活発な活動を展開。ただ、紋別地区は、新規会員がなかなか入らず、支部関係者からも「活動は事実上休止状態」と聞いていた。

同友会の存在は旭川時代に、同期の弁護士から「様々な業種と知り合える」と誘われたこともあり、以前から名は知っていた。その後、故郷の北見市で会員になっている同級生から「活動はすぐ活発。君もどうだい」と薦められたことから入会を決意した。

紋別市と経済的にもつながりが深い北見市の情報がなかなか入りづらいことに不自由を感じていたこともあり「それなら自分が新会員として加入し、先輩の皆さんに教わりながら一緒に何かをつくりあげていきたい」。浦澤さんはそう考えた。

今年4月、入会。さっそく会員相互の資質を高め合う例会（勉強会）の講師役に名乗り出た。テーマは「身近なビジネス法律問題の対応策」。これが会員らを大いに刺激した。

最新の情報共有 意見交換も充実

これがきっかけになって、休止状態だった例会は3カ月連続開催することになった。テーマは



「紋別で『世界的ビジネス』に挑戦!」、紋別地域ブランドを全道、全国、世界へ!」と多彩だ。北見の会員も参加するなど好評を博した。それだけではなく、会員同士が最新の事業などについて互いに情報交換できた上、人脈も広がった。北見とのパイプもできてきた。

浦澤さんは「経営者や社員向けの勉強会であったり、会員同士の交流を深める場でもあったり、と例会が果たす機能は多面的。経営者ならではの悩みを率直に打ち明けて、わいわいと相談もできます」と言う。

スポーツを愛し 地酒をたしなむ

浦澤さんは一見、文科系のイメージだが、子どもの頃からスポーツにも取り組んできた文武両道。特に高校時代はテニスでシングルスとダブルスの両方で全道大会の出場経験を持つ。弘前大学で鍛錬した少林寺拳法は2段の腕前。所属する旭川弁護士会の野球チームでも守備の要、サードを任されている。

趣味は温泉めぐり、大学時代から大のお気に入りという、青森の地酒「田酒」と「豊盃」を、紋別の新鮮な魚介類を肴に味わうのが「至福のひとつ」ときこみ笑顔をみせる。

同友会は、そんな趣味談義も気軽にできる雰囲気だという。「人脈を広げ、さらに地元紋別にとけこみたい」と微笑む。

「市民の皆さんにも例会を利用してほしい」と話す浦澤さん

名刺、伝票、チラシ、シールの事なら民友総合印刷お問い合わせ下さい。北海民友新聞社 241-3278